

平成20年度事業報告

1. 概要

20年度は事業計画に沿った活動を実施し、会員並びに国内外関係者の期待に概ね応えうる成果を得た。国際関連活動としては20年6月1～5日に「海洋科学技術に関する太平洋会議(PACON2008)国際会議」がアメリカ・ハワイ州ホノルル市で開催され、これに参加する参加者を募った。民間助成活動では、「河口・海岸域における生物生息環境の総合化研究」、「カンボジアの都市、沿岸域の水汚染回復事業」、「ツオンティン地区での住民による安全な水作り活動」を行い、相応の成果をあげた。

また、「海の森づくり事業」の名称で千葉県南房総市及び木更津市においてコンブ増殖準備試験を実施し、良好な繁茂成果を得た。

平成21年3月31日時点での会員構成は、正会員28団体、賛助会員の個人会員10名である。

今期は理事会を4回、通常総会を3回、運営委員会を8回開催し、運営全般について審議を行った。

2. 自主調査研究事業

- (1) 「海の森づくり」をテーマとし、コンブ増殖事業準備試験を行った。千葉県南房総市及び木更津市においてコンブ増殖試験を実施し、良好なコンブの繁茂と生物蛸集効果の成果を得た。新年度には本事業を正式に調査研究事業とし、実施することとする。本事業はコンブ育成により、食物の生産以外に生態系の構築、水産業の発展、食品としての流通経路の確保、バイオエタノール抽出、海中の二酸化炭素の吸収といったことを今後の課題として研究するものである。

3. 助成・依託事業

- (1) 独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金による「カンボジアの都市、沿岸域の水汚染回復事業」を行った。本事業は19、20年度と継続する事業で、今年が2年目である。事業内容は次の通りである。カンボジアのプノンペン、シアヌークビルは同国において1、2位の都市であるが、急激な人口増加、近隣、河川流域からの産業廃水・廃棄物、農業廃水、都市廃水等の流入により生活飲料水すらも汚染され、人間や河口海岸域、ひいてはタイ湾に生息する生物までも影響を及ぼしている。この水汚染を一刻も早く低減させ生活水、飲料水の確保、自然浄化能力の回復、環境回復の端緒をつける目的として事業を行った。

本年度は、現地コーディネーターと共同で実態調査、水質調査と併せて、水浄化装置の設計、施工、据え付けまでを行った。

(2) 財団法人河川環境管理財団の河川整備基金助成による「河口・海岸域における生物生息環境の総合化研究」委員会を5回行った。今年度は三河湾の環境状況を山間部から中流域、河口域と、流域環境が湾に及ぼす影響を研究者による報告により抽出した。これを元に陸上からの河口・海岸域までの全体像を描き、生物生息場回復手法について検討を行った。10月には干潟造成の研究調査の一環として、愛知県水産試験場の見学と意見交換を実施した。

(3) TOTO株式会社のTOTO水環境基金による「ツオンティン地区での住民による安全な水づくり活動」をベトナムにおいて実施した。本事業は平成19～21年度と続く事業である。

事業進捗状況として、2度現地訪問、現状調査を実施した。今後、現地での水浄化、供給として、汚染物質凝集剤を現地製造し、施設のタンク等設備を整えていく事とした。

本事業は来年度まで継続して行う事業で、現地住民による安全な水づくり事業に結びつけていく予定である。

4. 国際情報活動

(1) 海洋科学技術に関する太平洋会議(PACON2008)への参加

2008年6月1～5日にアメリカ・ハワイ州ホノルル市において「海洋科学技術に関する太平洋会議(PACON2008)」国際会議が開催された。当協会は同会議への論文発表者及び参加者の募集を行い、派遣した。

5. 広報

当協会事業活動報告として、ホームページを改編し協会活動の広報として掲示した。

6. その他

(1) 環境NGOと市民の集いが1月31日に東京・渋谷区の国連大学で開催され、当協会が海外(国内及びカンボジア)で行ってきた環境浄化、水汚染回復事業を紹介した。会場には約200名の聴講者が参加し、説明後の個別面談においても活発な質疑応答を行った。

(2) 海洋に関連する行事に積極的に参加、協力、援助を行う協会の活動趣旨に沿って、日本海洋工学会(下記の9学会の関係者で組織された任意団

体)が実施している海洋工学パネル(2回/年)の事務局を務めた。20年度の海洋工学パネルは、平成20年7月27日および21年1月31日に開催した。

日本海洋工学会加盟学会

海洋音響学会、海洋調査技術学会、(社)資源・素材学会、石油技術協会、(社)土木学会、日本沿岸域学会、(社)日本建築学会、日本水産工学会、(社)日本船舶海洋工学会